

浅間山2009年2月2日噴火の火山灰写真（その2）

2009年2月4日

マグマ物質について

採取場所：軽井沢町エネオス千ヶ滝店前（2月2日午前3時40分小山悦郎採取）



マグマ物質と考えられる粒子（径125-250 μ m）の拡大写真

（解説）

ここでいうマグマ物質（本質物質）とは、透明の発泡した新鮮な有色ガラスである。これは、噴火に伴って泡立ったマグマの破片（しぶき）が固まったものと考えられる。

- ・ 今回の軽井沢町で採取した火山灰試料（ASM-9020202）中には、重量でわずか1%以下のマグマ物質で確認できた。

- ・ 試料全体のうち約35%を占めている径1 mm以上の粗粒子では、新鮮な溶岩（80%）、変質溶岩（16%）、遊離結晶（4%）、堆積岩起源と思われる白色変成物質（0.4%）の割合であり、マグマ物質は確認できない。

- ・ マグマ物質は全体のうちわずか数%を占める細かい粒子にのみ確認できる。

- ・ 全体のうち約1.4%を占める径125-250 μ mの細粒子では、3,798個中7個のマグマ物質（上写真）を確認することができた。